

教育センター便り

長野市教育センター
長野市大字鶴賀550番地2
TEL 026-226-7486
FAX 026-264-7570
責任者 佐藤 文博

日常を十七音で

山王小学校

バチバチと 音をひびかせ たぐいほん

(宮島 航太)

お父さん 日焼けしすぎて かわだつび

(竹元 彩乃)

ポタポタと かさのふたいで 雨おどる

(添谷 咲羅)

せみうなり 梅雨明けもう暑 夏悪夢

(山 瑞乃)

梅雨の雲 きらりとのおぞく 日の光

(久保田 陽)

ただいまと 帰宅後すぐに

アイスクリーム

(竹内咲結実)



SaSaLANDでの 子どもの姿から考えたこと

教育次長 唐木 英俊



年々増加する不登校児童生徒への支援策の一つとして、令和6年4月にオープンした市内8か所目の教育支援センターSaSaLAND。令和6年度の総登録者数は204人、延べ利用者数7835人、1日の平均利用者数は35.5人であった。ちなみに令和7年7月時点での登録者数は177人と、昨年度同時期より30人増、1日の平均利用者数は41.8人と、こちらも昨年度を超えている状況である。

昨年度1年間、SaSaLANDで生活する子どもを見てきて（といっても私自身はわずかな時間であるが）考えさせられることがたくさんあった。

まず、何より驚かされたのは、本当に力いっぱい、体育館や庭で遊ぶ子どもたちの姿であった。多くの子どもたちが、一番長い時間を過ごすのが体育館だと所長が話していた。このことから、まず反省するのは、私自身が子どもに対して「不登校の子どもはおとなしい」と勝手なラベリングをしているということである。子どもたちが多様化していると口では言いながら、実際には狭いフレームからしか子どもを見ていない自分がある。場や接する人が変われば子どもの姿も変わる。改めて、様々な顔を見せる子どもを、より多くの目から捉える必要があると思う。今後、さらにSCやSSW等の専門家も含めた多様な人

材・チームでの対応が必要となってくるだろう。日常的には、子どもと接する一人一人の教職員にも多面的に子どもを観る「子ども観」が求められるだろう。しなのきFinderがその一助になることを願っている。

以前、上智大学の奈須正裕教授の講演会で紹介された不登校の子ども言葉「学校には、やらなきゃいけないことと、やっちゃいけないことしかない」。この言葉に様々なことが象徴的に表れていると思う。SaSaLANDには、やらなきゃいけないこともないし、やっちゃいけないことはほとんどない。「そんなことを許したら、学校が成り立たない」とおっしゃる方もいると思う。それもその通りだと思うが、SaSaLANDの子どもたちは、大きく許された世界の中で、教科学習でこそないものの、様々な活動や生活の中から、人と折り合いをつけること、自分たちでルールを決めること、自分の思いを正しい方法で表すこと等々、大切なことを学んでいる（学び直していると言ってもいいかもしれない）のは事実だ。

近年、「やっちゃいけないこと」はできる限り少なくし、「子どもたちがやりたいこと」が思う存分できる場や時間を設ける学校が増えてきている。そのベースには、子どもの声を聴き、子ども中心の学校をつくらうという先生方の熱意がある。まさに、「信州教育」の原点であると思う。

本年度、長野市では子どもの権利条例の策定が進められている。条例の理念とSaSaLANDでの子どもの姿を重ねたとき、私たち教師や学校に求められているのは、理念の理解とともに、「子どもを信じる心」ではないだろうか。

初任者研修「夏期研修」

7月30日～8月1日の3日間、長野市小・中学校初任者研修「夏期研修」を実施しました。

【3日間の研修内容】

- 1日目・地域素材研修（戸隠地質化石博物館）
 ・防災教育研修 ・仲間づくり研修
- 2日目・近藤守教育長職務代理者の講話
 ・自己課題追究研修 ・夏季大学視聴
- 3日目・松代地区班別研修 ・振り返り研修



【受講者の感想】

- この3日間で、普段はなかなか経験することができない貴重な経験ができたと思います。また、その経験から教師として何ができるのかを考えることができました。目の前にいる子ども達を真ん中にして、より良い指導や支援ができるように努めていきたいです。
- 2学期は地域素材研修で学んだ「なぜだろう」という視点と夏季大学から学んだ「子ども達の声を聞くこと」を大切にしていきたい。
- 2学期子ども達と会うのが楽しみになる研修となった。3日間学んだことがたくさんあるので、学んだことを活かして子ども達と生活したい。教科学習も1学期の反省をしながら、自己課題の解決に向け2学期は挑戦していきたい。
- 教師と子ども両方の視点を意識して、研修を行うことができました。また、経験したことをまとめアウトプットすることの大切さも感じました。班で考える時間が楽しかったです。
- この3日間で「仲間と協力して、共に創ること」そして、「自ら求めること」を学び、私自身も成長しました。2学期も子ども達と共に、学び、成長していきたいです。

初任者が、様々な体験的活動を通して、教師と子どもの両方の視点で考え、共に学び合う3日間となりました。また、自分たちの研修をより良くしようと、仲間と考えたり、工夫したりする主体的な姿がたくさん見られました。初任者研修対象者56名全員で充実した研修を創り上げることができました。

（末松 辰規）

待ったなし！ 映像遺産を 守るのは今？

思い出の
テープ、
2025年に
再生できないかも



気づかぬうちに進むテープの劣化。再生機器もすでに市場から姿を消しつつあります。学校で大切に残してきた行事の記録や思い出の映像も、このままでは失われてしまう危険があります。



学校に、どうしても残したいテープがあるんだけど、どうしたらいいの？



教育センターには、VHS、ベータ、8ミリビデオ、DVの各ビデオデッキがあり、今のところ動いています。機器が動いている間は各学校で残したいテープをMP4のデジタル映像に変換するお手伝いをしたいと思います。

<磁気テープ映像をデジタル映像に変換するサービスのご案内>

- ・各学校で必要度の高いものから順に、MP4形式のデジタル映像に変換します。
 - ・対応可能なメディアは、VHS・ベータ・8ミリビデオ・DVの4種類に限ります。
 - ・テープの保存状態によっては変換が困難な場合があります。すべての映像を完全にデジタル化できることを保証するものではありません。
 - ・通常業務の合間を利用して対応いたしますので、変換にはお時間をいただく場合があります。
- ※ご依頼は、下記メールアドレスまでご連絡ください。
eckensyu04@nagano-ngn.ed.jp 中澤（康）

磁気テープの2025年問題

VHSをはじめとする磁気テープは、経年により磁性体の剥離やカビの発生が避けられず、映像の劣化が進行します。加えて再生機器はすでに製造終了となり、故障時の代替手段も限られています。ユネスコは2019年に、2025年までにデジタル化を進めなければ記録の多くが失われると警告しており、国際的にも対応が急務とされています。

（中澤 康匡）

令和7年度 教育研究委員会の授業公開一覧
長野市教育センター教育研究委員会

共通テーマ 「非認知能力を育む」				
委員会	期日 ◇授業公開 ○研究会	学校名 授業者	学年・組 単元名等	授業内容
研究 国語科 委員会	委員会テーマ 『「できた」「わかった」「やってみよう」につながる、粘り強い探究過程』			
	10月8日(水) ◇13:45～14:30 ○14:45～15:30	塩崎小学校 青木友佳里 教諭	6年西組 「おすすめパンフレット を作ろう」	どんな人に、どんなものを推薦したいかをグループで決めた子どもたちが、相手意識をもって構成や文章を工夫しながら、魅力的なパンフレットを作成する。
研究 社会科 委員会	委員会テーマ 「社会とのつながりを感じ、見通しをもちながら自ら関わりに行く児童生徒の育成」			
	10月24日(金) ◇13:40～14:30 ○14:40～15:30	川中島中学校 青木 蘭奈 教諭	1年1組 「主人公はたそ？」	「竹取物語の主人公はだれか」という探究課題のもと、翁と姫の登場場面を中心に『竹取物語』古典原文を読み、物語の主人公について論じる。
研究 算数・ 数学科 委員会	委員会テーマ 「子どもの深い学びを、目指した算数・数学の授業づくり～他者と協働する学習を通して～」			
	10月15日(水) ◇10:45～11:30 ○11:35～12:20	南部小学校 阿部 将樹 教諭	4年1組(少人数コース別) 「がい数とその計算」	子どもが問いをもって追究し、算数を活用することのよさを味わう授業づくり
研究 理科 委員会	委員会テーマ 「子どもが主体的に問題解決していく理科学習」			
	10月7日(火) ◇10:55～11:45 ○11:55～12:45	東北中学校 西澤 雄貴 教諭	2年1組 関数(1学年の内容を含む)	他者と協働する学習を通して、深い学びを実現するための授業づくり ～全国学力学習状況調査の問題を用いて～
外国 語科 研究 活動 委員会	委員会テーマ 「子どもが主体的に学ぶための授業の工夫～子どもの願いの見取りや中間指導でのフィードバックに注目して～」			
	12月2日(火) ◇10:50～11:35 ○11:45～12:30	若槻小学校 神山 夏実 教諭	6年2組 「水溶液の性質」	班ごとに実験をする学習を通して、水溶液にどんなものが溶けているのか意見交換を行い、子どもの考えをつないでいく授業づくり
研究 体育・ 保健 体育科 委員会	委員会テーマ 「すべての子どもが夢中になり、健康で豊かなスポーツライフの実現をめざす体育学習の創造 一見方・考え方を働かせ、もって『わかる』『できる』『かかわる』体育学習一」			
	10月10日(金) ◇13:50～14:35 ○14:45～15:35	大豆島小学校 坂本 尚子 教諭	4年3組 「Unit 7 What do you want ?」	自分の作りたい○○に向けて、ほしいものについてやり取りする学習
研究 道徳 委員会	委員会テーマ 「自己を見つめ、他者と関わりながら、よりよく生きようとする児童生徒の育成～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～」			
	9月1日(月) ◇14:10～15:00 ○15:10～16:50	豊野中学校 宇野田陽実子 教諭	2年1組 「Unit 4 Tour in Singapore」	「誰に、何を、何のために」伝えるのかを明確にしながらやり取りする学習
研究 道徳 委員会	委員会テーマ 「自己を見つめ、他者と関わりながら、よりよく生きようとする児童生徒の育成～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～」			
	11月17日(月) ◇13:50～14:35 ○14:50～15:40 (予定)	大豆島小学校 小林 市 教諭	6年1組 「B 器械運動領域 ウ 跳び箱運動」	「全員参加の体育授業」の実現を願い、一人一人が自分のつまずきに応じて自分のペースで学習を進める「跳び箱運動」の授業を構想する。
研究 道徳 委員会	委員会テーマ 「自己を見つめ、他者と関わりながら、よりよく生きようとする児童生徒の育成～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～」			
	11月17日(月) ◇ 9:40～10:30 ○10:45～11:30	信州新町中学校 濱 彰吾 教諭	1年1組・2年1組 「E 球技領域 ア ゴール型」	「教材づくり」と「問い」を視点に、子どもたちがゴール型球技のもつ本質的な面白さを味わえるような授業を構想する。
研究 道徳 委員会	委員会テーマ 「自己を見つめ、他者と関わりながら、よりよく生きようとする児童生徒の育成～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～」			
	10月8日(水) ◇10:50～11:35 ○11:40～12:25	川中島小学校 永井由美子 教諭	6年3組 「ロレンゾの友達」	真の友情とは何かを考える。
研究 道徳 委員会	委員会テーマ 「自己を見つめ、他者と関わりながら、よりよく生きようとする児童生徒の育成～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～」			
	12月9日(火) ◇ 8:35～ 9:25 ○ 9:35～10:25	篠ノ井西中学校 今井 智文 教諭	2年1組 「遠く離れた人に会いたい」	自分の弱さと向き合い生きていくことについて考えさせ、よりよく生きていこうとする心情を育てる。

☆参加申込は校支援文書管理で送信(8/18付)してある「参加申込票」を、その都度お使いください。(参観のみも可能です。)

「参加申込票」送付先: eckensyu05@nagano-ngn.ed.jp (片山宛)

☆お問い合わせは、TEL 223-0070 長野市教育センター研修研究担当まで。

(片山 洋一)

「しなのきプランⅡ」（2年次）の取組を推進しています！

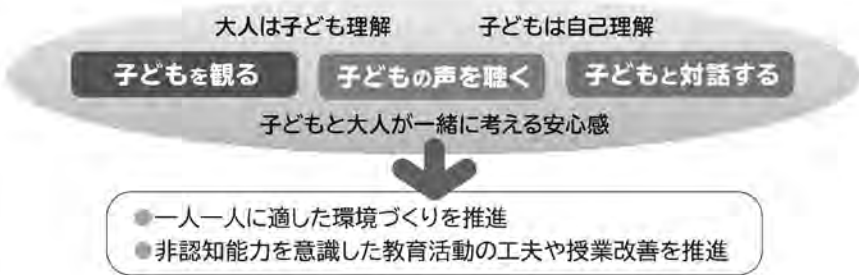
予測困難な時代においては、子どもが受動的に授業を受ける教育から自ら問いをもち、自ら学びを進め、共に育っていくための資質・能力を育む教育への転換が求められています。そこで、「しなのきプランⅡ」では、これまで以上に、「自学自習の資質能力」の伸張に向けた取組を推進してまいります。

「しなのきプランⅡ」で、全ての子どもたちに育みたい資質・能力 自学自習の資質能力

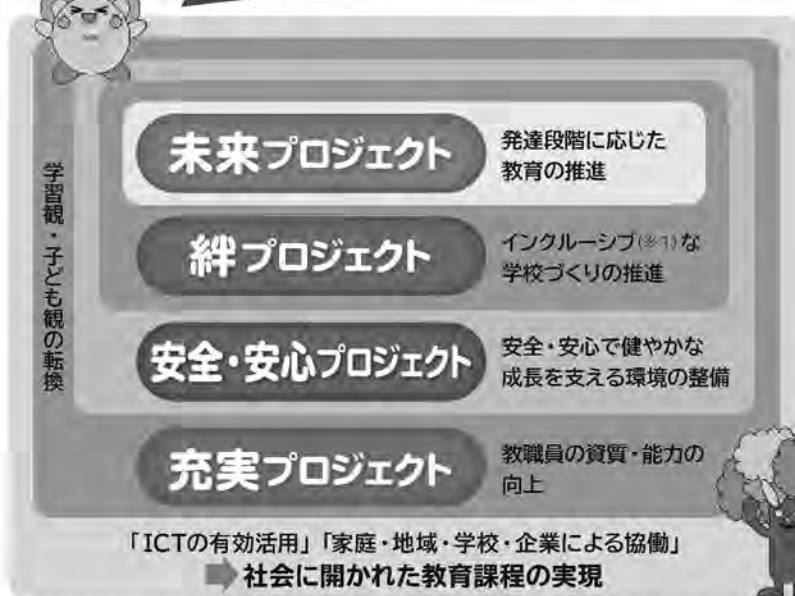
自学自習の資質能力とは
自ら問いをもち、
自ら学びを進め、
共に育っていくための
資質・能力
※しなのきプランⅡで再定義



●新たな調査「しなのきFinder」を導入



「しなのきプランⅡ」のイメージ



子どもたちの自学自習の資質能力の伸張を支援

目指す子どもの姿

長野市教育の基本理念

自ら学び共に育つ

「ウェルビーイング」※2の実現

明日を拓く深く豊かな人間性の実現

※1 インクルーシブ 障がいの有無や性別、性的指向、人種などで区別されないこと
 ※2 ウェルビーイング (Well-being) 身体的、精神的、社会的に良好な状態のこと

4つの重点プロジェクトと主な取組

長野市教育委員会では、「しなのきプランⅡ」に基づき、4つの重点プロジェクトにより、市立小・中学校の取組を支援し、子どもたちの更なる学びの充実を図ります。

未来プロジェクト



子どもの状態を大切に、発達段階に応じた教育や、学校・家庭・地域とが連携し、子どもたちの未来を拓く力を育成する教育を推進します。

主な取組

- 「しなのきFinder」の実施
- 「GTEC」(スコア型英語4技能検定)の実施
- 研究指定校による非認知能力を意識した実践研究
- 科学好きを育み、エンジニア等の人材の基礎を培う「NSSP」の実施
(ナガノスーパーサイエンスプロジェクト)
- 「アスリートと楽しむスポーツ教室」の実施
(ナガノスポーツアクションプロジェクト)
- 1人1台端末の有効活用を推進

絆プロジェクト



お互いを認め合い、多様な個性が活かされ、全ての子どもたちが自分のよさを発揮できるようなインクルーシブな学校づくりを推進します。

主な取組

- 発達支持的生徒指導(※3)をベースとした授業改善
- SaSaLANDを中核とした教育支援センター充実プラン
- フリースクール等民間施設団体との連携
- 人権教育の視点からの授業づくり
- ユニバーサルデザイン化(※4)と合理的配慮を視点にした授業づくり

※3 個性の発見とよさや可能性の伸長、資質・能力の発達を支えるための働きかけ

※4 すべての子どもが学びやすい環境づくり、授業づくり

安全・安心プロジェクト



子どもたちの安全・安心で健やかな成長を支える学習環境を整備します。

主な取組

- 学校未来plan子ども会議
(長野市子ども議会など)
- 自ら判断し、正しく行動するための、情報モラル教育の推進
- 「長野市版 新しい水泳学習」の推進
- 実践的な安全防災教育の推進
- 外部機関等との連携による健康教育の充実


充実プロジェクト



教職員がやりがいを実感しながら研究・研修に取り組み、自らの力量を向上できる環境を整えます。

主な取組

- ニーズに応じた多様で質の高い研修講座の構築
- 『自ら学び 共に育つ』学校づくり事業
(しなのきプランワーキンググループ【SWG】)
- 学校における働き方改革推進のための基本方針の更新&実施
- 授業改善をサポートする対話型訪問支援
- 多様なニーズに臨機応変に対応する「しなのき派遣」


**非認知能力の育成につながる
実践事例**
 ~2025.2.6号より~

ウェルビィ ティリアン



1/28 (火) 第7回「しなのきピアカフェ」の様子をご紹介します
~子どもの「安心感」が、さらに高まる学校を目指して~



今回は、『非認知能力』と向き合った先に見えてきたもの』をテーマに、IPU 環太平洋大学 特命教授 中山 芳一 先生と参加者が対話を通じて、今年度の成果と来年度の方向性を共有し合いました。



子どもの姿が変化してきた学校の共通点

- ①先生同士の情報交換や対話の機会を設ける等、「非認知能力」を意識した取組を「チーム学校」で推進している
- ②先生自身が「やってみよう！」と試行錯誤をしている



中山特命教授

参加者の声



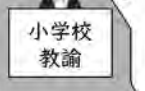
小学校教諭

研究指定校の授業を参観したり、情報交換したりする中で、「自由進度学習」を窓口「非認知能力」が高まる実践を学びました。その様子を自校の先生方に共有し、自校の取組の参考にしました。



小学校教諭

ピアカフェで実践を教えてもらった研究指定校に連絡を取らせていただき情報交換をしました。学校や校種を越えて「非認知能力」を視点に学校同士がつながることのよさを感じました。



小学校教諭

本校では、児童が中山先生のお話を直接聴く機会がありました。子どもたちは「自ら考えて動くこと」の大切さを実感でき、その後、子どもがお互いに声を掛け合い、より良い授業をつくろうと協力する場面が見受けられ、「非認知能力」の高まりを実感しました。



中学校教頭

**「非認知能力」について、先生同士で対話してみませんか？
オンデマンド研修動画 (IPU 環太平洋大学 中山 芳一 特命教授 監修) を制作しました！**

動画メニュー

どの動画も10分程度で視聴できます！

- 【研修動画①】なんだ！非認知能力ってそういうことか！！
- 【研修動画②】やってみましょう！あなたの学校の行動指標づくり
- 【研修動画③】子ども非認知能力をくすくする「ギミック」の秘密
- 【研修動画④】意外と知らなかった！効果的な「振り返り」の仕方
- 【研修動画⑤】先生方が肝！子どもを見る「目」を磨きましょう

動画活用例



【個人で視聴】
時間がある時、自分のペースで研修



【職員会議/学年会/部会で視聴】
会議内にミニ研修を位置づけ、「10分視聴→10分対話」等、実情に応じて研修



動画①



動画②



動画③



動画④



動画⑤

研修動画は、「長野市ポータルサイト」>「研修講座ポータル」>「補講・オンデマンド研修」からも視聴できます。(学校教育課 担当:滝澤 ☎224-5081)

「しなのきFinder」を活用した学年・学級づくりにチャレンジしませんか

レポートは、評価ではなく、子どもの状態を観るものです

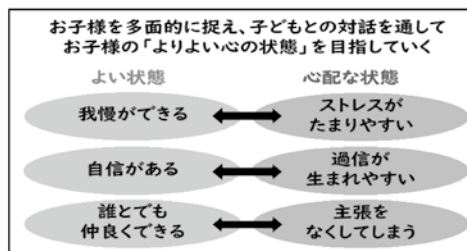
レポートは子どもが自身のことについて尋ねた設問に対して回答した結果です。お子様自身が自分のことをどうとらえているかがレポートに出ておりますので、子ども理解や、子どもと関わる際の参考としてご活用ください。

ポイント① よさで捉える

・数値が高いから良い、低いから悪い、ということではなく、今の子どもが自身のことをどう感じているかをとらえた上で、よい面を具体的な姿と結びつけて伝えましょう。

ポイント② 両義性で捉える

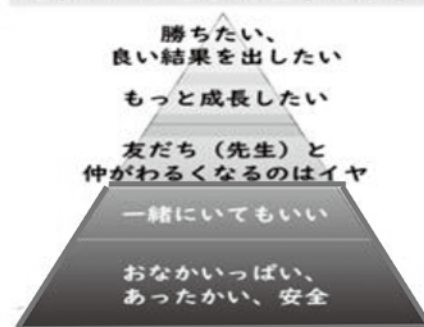
・頑張り過ぎたり、無理し過ぎたりすることは、心配な状態に繋がる可能性もあります。
・よい面だけでなく、心配だと思ふ面でも視点を変えれば新たなよい面の発見に繋がるかもしれません。



ポイント③ ウェルビーイング×非認知能力という視点でとらえる

・右の図にあるように、子どもも大人も、「安全性」や「所属感」を感じている程、モチベーションが高くなります。お子様のウェルビーイングに着目し、思いを聞いたり、よさや強みを伝えたりすることで、非認知能力の育成に繋がります。

モチベーションのピラミッド



非認知能力の育成につながる5つの提案

提案1

行動指標を教師と子どもで共有
学校教育目標実現に向けて、教師と子どもの思いが詰まった行動指標を作り、学校全体で非認知能力を意識してみませんか。

提案2

行事等を活用した非認知能力の育成
学校行事等で得られる体験活動を通して、非認知能力の育成にアプローチをしてみませんか。

提案3

子どもが主体的に取り組める時間の設定
子どもの「やりたい！」「楽しい！」という気持ちに寄り添い、思う存分取り組める環境を整えることで、ウェルビーイングや非認知能力を育ててみませんか。

提案4

「しなのきFinder」の結果を活用した子ども支援
「しなのきFinder」の結果から子どもの「よさ・強み」等を把握し、子どもへの声掛けや支援に役立ててみませんか。

提案5

教師も子どもも非認知能力を意識した授業実践
教師と子どもが授業で育みたい非認知能力を共有し、実践・振り返りを積み重ねていく授業づくりをしてみませんか。

市教育委員会では、非認知能力を育むためのキッカケとなる動画を作成しました。年度末や年度始めの職員研修等でご活用ください。校務用ポータル「教育センター・研修講座ポータル」より、ご視聴いただけます。



指導主事

教育相談室から ～ 通常の学級へのメッセージ ～

夏休みに合わせて今年も学校閉庁日が9日間にわたって実施されました。先生方におかれましては英気を養うよい機会になったことと拝察いたします。

さて、今年度の就学相談の申し込み件数をみますと、学校閉庁までの数は昨年度よりも16件多くなっております。ここからも年々増加する申し込みが、今年度も同様の傾向と予測されます。

子どもたちの困り感は大枠で考えると個人因子（特性）と環境因子（社会状況、家庭状況、学級の在り方等々）に大別されます。今回ふれていきたいのは環境因子である学級についてです。学級の主たる機能は授業なのですが、この授業の組み立て方、進め方で子どもたちの困り感もずいぶん違ってくるのではないのでしょうか。

それぞれの相談員は相談を進める中で、必ず相談対象のお子さんの学級の授業を参観させていただいております。教師からの指示説明、子どもからの対教師への対応という単線的・直線的な学習軸が多く授業の中心にあると思います。その学習軸の周辺で迷い佇み、そこに乗ることが難しいお子さんがたくさんいます。それこそが、相談の主訴によくある学習の困り感の大半だと思います。

それとは反対の授業を観せていただくこともあります。小学2年生の国語「夏のことばさがし」の授業です。イレギュラーな事態が生じて個別対応が必要になった担任の先生は、「みんなで相談してね」と全体に投げかけました。すると席の前後左右で、「プール」「はなび」「かきごおり」などの夏をイメージすることばを出し合い、担任の先生が不在でも停滞するどころか学習が進みます。相談の対象児もその中でたくさんのことばを吸収し、「せみ」「はなび」などと学習カードに記入していました。担任の先生は1年生のときから子ども同士のつぶやきや話し合いを大切にしていたのだと感じました。先ほどの単線的・直線的な学習軸の周辺にいる子どもたちにとっては、子ども同士の話し合いのあるこうした授業のかたちがとても学びやすいのだと思います。

その学校は大きな学校でしたが特別支援学級はとても少なく、このような授業スタイルを通して、所謂グレーゾーンのお子さん達も通常の学級に包摂されているのだと感じました。

また、中学校の特別支援学級では、社会科の学習で学校周辺の公共施設を地図上に配置する活動をしていました。その学習スタイルは担任の指示説明で配置するのではなく、生徒同士が考え合って話し合って確定していききました。たまたま「先生ここでもいいの？」と訊く生徒がいましたが、担任は「相談してみてもいい」と返しており、ちゃんと生徒同士で確定していききました。そのうえ、ある生徒から「うちのじいちゃん、この支所に証明書を取りに行った」と生活の中からの発言（つぶやき）があり、自然にその機関のはたらきについての学びが当該生徒だけでなく、参加している生徒たちに浸透していききました。

教師の指示や問いに器用に応じられるお子さんばかりではありません。その周辺にいるたくさんのお子さんの困り感が増大しているから、その分就学相談の申し込みも増えているとも考えられます。そうした事態への対応の一つのヒントが上記の事例にあるのではないのでしょうか。

学び成長していくのは子ども本人です。自分から主体的に学ぼうとすることが何よりも大切だと思います。2学期も本格的に動き出したこの頃です。毎日の授業にもう一度目を向けてみましょう。（大井 透）

運営委員会報告

7月3日(木)に第1回運営委員会を開催しました。各担当から事業に関する説明を行い、委員の皆様から質問や意見をいただきました。

令和7年度運営委員会委員（敬称略）

越智康詞	信州大学教育学部教授
綿貫好子	社会福祉法人廣望会 アトリエCoCo所長
中島功雄	株式会社中嶋製作所代表取締役社長
小林克浩	三陽中学校長
宮本由希子	三本柳小学校長
市川大輔	東北中学校教頭
赤羽美和子	戸隠小学校教頭

委員の発言（★）と教育センターの返答（◎）抜粋

1 教育の研修・研究について

★意見交換を実施する等、受講者間の繋がりや支えあいが重要。

◎専門研修の場等が、他校の教諭と情報を共有できる場になっている。

★オンデマンドによる授業公開を増やせないか。

◎全ての14授業が公開できるか検討するほか、直接参観についても呼びかけを強化したい。

★参加型とオンライン型を選択できることがありがたい。

◎出前講座（しなのき派遣）も利用してもらいたい。